



令和6年12月25日発行
豊岡市竹野町竹野 2422-9
電話 0796-20-1745
竹野浜自治会

竹野浜自治会だより 12月版



令和6年もあとわずかです。世間は、猛暑・国政選挙・県政の混乱と慌ただしい一年でしたが、竹野浜自治会におきましては会員の皆様のご支援、ご協力をいただき新しい年を迎えることができますことを心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて令和6年を振り返ってみると、一昨年以來、豊岡市総務課より指摘されていた、代議員制を検討し全会員の意思の反映を指摘された、重要な一点である『会員』の確認のために、会員名簿の提出を改めてお願いしました。1月からはもう一つの最終課題である『会員の総意』を年度末に向けてまとめていくこととなります。この件については、評議員会で審議してどのような形で会員の皆様の総意をまとめるか検討して参ります。

竹野浜自治会を豊岡市でも名のある『認可地縁団体』に育てていくためにも、【認可】を管轄する豊岡市役所の意向にしたがって適切な対応をしていこうと考えておりますので、引き続きご支援ご協力の程、よろしくお願いいたします。

★～竹野浜自治会館 集会室の利用～★

現在、2つの団体の方々が定期的に集会室を利用してくださっています。

ゆるやかストレッチ

介護予防・健康増進の為にストレッチ・ヨガを行っています。

毎週火曜日 13:30～



玄さん元気教室

スロー筋トレ・ストレッチ・歩キング体操・血圧測定で元気力アップ!

毎月第2・第4

木曜日 13:30～

※会館利用をご希望の方はお気軽にご連絡ください ☎0796-20-1745

竹野浜自治会有土地賃貸料の期限が過ぎております。何かと物入りの時期とは存じますが、未納の方は至急お振込みいただきますようよろしくお願い致します。

〔竹野浜自治会館年末年始の休業について〕

竹野浜自治会館の年末年始は、下記のとおり休館とさせていただきます。何かとご不便をおかけしますが、よろしくお願い致します。

12月28日(土)～1月6日(火)まで



《ちょっと “竹野”》

北前船って？パート2

“北前船” “焼き杉板の町並み” “川湊” といえ、竹野浜地区の皆さんにとっては馴染みのあるキーワードですね。しかし関連のある言葉でも、昔から周知されているのは“北前船”です。“焼き杉板の家”も“川湊”も近年に学者や研究者の皆さんが教えてくださった竹野の価値です。

北前船は江戸時代から多くの遺産（財産）を竹野にもたらしてくれました。北前船が日本各地を廻り、竹野に持ち帰って遺産の主なものに、焼物（久谷・伊万里など）や輪島塗などの漆器留意があり、屏風・衝立・襖絵・軸物といった各種の書・絵画や工芸品等がある。又船筆筒や船名額等の船中用具から、船絵馬、船模型、方角石、医師灯籠、引札といった文化遺産もある。

又、北前経営で蓄財した北前船の船主の多くは、藩財政の窮乏により、藩主の依頼を受けて銀子（お金）や米などを差し出して、その代償として殿様から「苗字」や刀・盃・提灯・陣笠などを拝領し、それらを今に伝えている。さらに味噌・醤油・酒・などの醸造業や商取引の必要性から銀行などの金融業と通信分野での郵便局の開局や学校の創立など比較的早く、これらは経済基盤が確立していたことを物語っている。

また竹野浜では『相撲甚句』などは北前船によって東北から伝えられたといわれます。まさに竹野浜は、北前船の“街・浜・港”であったといえるのではないのでしょうか？素晴らしい竹野の遺産です。

竹野は江戸中期～明治後期まで廻船業で栄えていた。大部分は中小規模の船主で、北前船も短距離を航海する小廻り輸送に従事する小型の船が多かった。

1800年代初頭の文化文政（1816～1823）の頃、竹野町史（通史）には、北前船の数について次のような表記がなされています。

- 六拾石積拾三艘、— 八拾石積九艘、— 百石積五艘、— 百貳拾石積五艘、
- 百三拾石積貳艘、— 百四拾石積三艘、— 百五拾石積五艘、— 百六拾石積四艘、
- 貳十石積運賃積七艘、— 磯乗船 四拾五艘 〆船数合九拾八艘（合計 196 艘）

※弘化2年（1845年）但馬廻船村別状況では、竹野村 56 艘、居組村 24 漕、瀬戸村 21 艘、諸寄村 19 艘、小島 12 艘、丹上上ヶ村 10 艘、浜坂村 9 艘、浜安来村 5 艘、……

このように但馬・日本海側では、竹野浜の北前船が最も活躍していたと考えられます。

今、人口減少という問題を抱えている竹野町において、この北前船や相撲甚句など歴史的遺産や恵まれた海・山を大切にして、竹野の町を再び元気にしていく手掛かりにできればと考えます。